

科目名	バイオマス利用工学			英文表記	Biomass conversion		2014/03/07		
科目コード	6023						作成		
教員名: 田邊俊朗									
技術職員名:									
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間			
全コース	専1	選択	学修	2単位	講義	後期			
科目目標	様々な情報収集と、討論による情報交換を行い、バイオマスとその有効利用に必要な前処理技術について理解する。 技術者に必要とされるライフサイエンス・アースサイエンスの知識を有し、自らの工学の分野に関係するより複雑な課題に対しても応用できる。								
総合評価	科目達成度目標①②③について60点満点の定期試験を行う。また、普段の学習・理解を重視し、検索した文献情報を報告させ、質疑応答を行う。各回の討論では、調査課題の発表を10点満点で評価する。またテーマに関連する質疑応答1回を1点として積算する。定期試験60%、発表10%、質疑応答合計30%で成績を判断し100点満点中60点以上を合格とする。								
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)				達成度目標の評価方法			目標割合	
	①	バイオマスとはどういうものかを説明できる。(機A-3, 情B-3, メA-1, 生B-1)			⇒	バイオマスについて説明させる記述式試験を行い、その答案内容からバイオマスがどういふものか説明できるかどうかを評価する。		20%	
	②	バイオマスの変換利用に必要な前処理について説明できる。(機A-3, 情B-3, メA-1, 生B-1)			⇒	バイオマスの前処理に関する試験を行い、その記述内容から前処理について説明できるかどうかを評価する。		20%	
	③	バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を理解する。(機A-3, 情B-3, メA-1, 生B-1)			⇒	バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を問う試験を行い、記述された内容から理解度を評価する。		20%	
	④	バイオマスの有効利用についての知見を得る情報収集力と文献読解力を培い、とりまとめて発表出来る。(機A-3, 情B-3, メA-1, 生B-1)			⇒	毎回の授業前にバイオマスの有効利用についての文献検索を課し、検索した文献情報を報告させ発表点とする。		10%	
	⑤	バイオマスの有効利用技術について討論できる。(機A-3, 情B-3, メA-1, 生B-1)			⇒	報告した文献情報について毎回質疑応答を行い、バイオマスの有効利用技術について討論できるかどうかを評価する。		30%	
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	機械システム工学	情報通信システム工学	メディア情報工学	生物資源工学
	◎				JABEEプログラム教育目標	A-3	B-3	A-1	B-1
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合									
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック		
評価項目		0	0	0	100	100			
基礎的理解					40	40			
応用力(実践・専門・融合)					20	20			
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)					40	40			
主体的・継続的学修意欲						0			
授業概要、方針、履修上の注意	身近なものから始めてバイオマスについて理解できるよう、その変換と利用、解決すべき課題について講義する。講義と討論中心ではあるが、理解を深めるために実験・演習も行う。								
教科書・教材	教材: 教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料 参考図書: バイオマスハンドブック、バイオマス・エネルギー・環境、(キーワード: Biomass、バイオマス)								
授 業 計 画									
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				自学自習(予習・復習)内容	セルフチェック	
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									

13				
14				
15				
期末				
16	バイオマスとバイオマス変換とは	2	バイオマス変換全般について概論を理解する。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。地球温暖化の問題点、原因と対策について理解している。	バイオマスとバイオリソース
17	キチン質の分布と前処理	2	自然界におけるキチン質の分布と、抽出法を学ぶ。	キチン・キトサン
18	キチン質関連酵素群	2	抽出されたキチン質の利用に関わる酵素について知る。	キチナーゼ・キトサナーゼ
19	キチン質誘導体の応用	2	キチン質オリゴマーの生理活性を学ぶ。免疫系による生体防御のしくみを理解する。	オリゴ糖
20	リグノセルロースの分布と前処理	2	植物系バイオマスの分布と前処理全般を学ぶ。	リグノセルロース
21	リグノセルロースの前処理2	2	微生物・マイクロ波複合型前処理について知る。	マイクロ波
22	リグノセルロース関連酵素群	2	リグノセルロースの利用に関わる酵素群について学ぶ。	セルラーゼ
23	リグノセルロースの変換1	2	エタノール変換について学ぶ。	アルコール発酵
24	リグノセルロースの変換2	2	メタン変換について学ぶ。	嫌気発酵
25	廃棄物系バイオマスの変換1	2	農業系廃棄物の変換利用を学習する。	農業廃棄物
26	廃棄物系バイオマスの変換2	2	工業系廃棄物の変換利用を学ぶ。人間活動と地球環境の保全について考えることができる	産業廃棄物
27	バイオマス変換実験1	2	シュレッダーで断片化した紙の糖化を実習する。	紙とは
28	バイオマス変換実験2	2	紙-糖化液からのエタノール変換を実習する。	酵母の培養
29	バイオマス変換実験3	2	エタノール濃度を測定し、変換効率を求める。	酸素電極
30	食糧と競合しない栽培しないバイオマス	2	未利用かつ非食用資源の変換について学ぶ。	芝・布・うどん・藻
期末	期末試験	[1]		
学習時間合計		30	実時間	22.5
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
①	毎回の授業前にバイオマスの有効利用についての文献検索とその読解を課し、検索した文献情報と内容を報告させ、互いに討論させる。報告あつての討論のため、自習しておかないと授業中の討論には参加できない。			各4時間×15回
備考欄				
(共通記述) ・この科目はJABEE対応科目である。その他必要事項は各コースで決める。 (各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目はバイオテクノロジー(専攻科1年)、酵素化学(専攻科1年)。 その他必要事項は各コースで決める。				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)